

<今回>260回目 2019年6月21日(金)15時~18時 601号室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p64 「後漢書」の邪馬台国 から

<前回>259回目(19-6-3) 出席者 9名

資料(19-06-03-1)前回のまとめ(清水)

-2) 日程表(12月まで)(清水)

-3) 混一疆理歴代国都之図(龍谷大学図書館蔵)(清水)

-4) 茨城官衙遺跡図(肥沼)

-5) 遣唐使(続日本紀)(庄司)

A 報告 多元の会会員の降旗康男さんが5月20日に亡くなられた。84才。長野県出身、松本深志高校、映画監督、ポッポ屋(高倉健主演)など多数作品がある。社会派、民衆派、古田先生の弟子で支援者だったようだ。

B 資料 -2) 12月まで日程を予約したが16時からが4回ある。注意してください。-3) 南北に長い地図の実例として古田説の反論で使われた時期があった。15世紀朝鮮の地図、世界最古。行基図は上が北とは限らない。-4) 茨城の評衙ではないかと肥沼氏から調査の経過報告があった。一部に東偏の柱穴図がある。-5) 庄司さんから前回栗田真人の肩書について押使と云ったが、間違っていたと訂正された(執節使)。日本文学大系統日本紀の付録遣唐使をコピー配布して説明してくれた。押使大使副使の間に、執節使という特別の位が与えられている。

懇親会7名 津多屋15433円(2000・7) -1433円

C 読書 p54 帰結 から 交代読み

1) 帰結 ①金印の印文は中国古印の表記法に従う限り漢ノ委奴国王と2段に読まなければならない。②委奴を伊都と読むことはできない。(音韻法で否定していない)伊都国が中心国の可能性が認められないから。③ヤマトとは読めない。志賀島から発見の事実を説明することが困難。④「委奴」は倭人部族全体という意味を現わした名称で、博多湾に存在した倭国の中心王朝に光武帝が与えた国号。

2) 金印の役割 「奴」という小国に与えた金印ではない。2段読みでなくてはならない。奴国が中心国では矛盾。漢書1世紀、三國志の3世紀、後漢書の5世紀と続く邪馬台国=博多湾岸一倭国の中心という視点に立つと理解が自然。

3) 倭国の時間軸

57年 金印、委奴国

107年 倭国王師升(生口160人)、

147年~188年(桓一霊) 王不在(後漢書では倭国大乱)、

238年 卑弥呼遣使、その前倭国乱れ相攻伐すること歴年。陳寿が7, 80年王不在と書いているのを范曄が桓霊間40年にしているのは別の資料に因ったか結果的に合理的。卑弥呼の前の男王は帥升の可能性が高い。

二 邪馬壹国から邪馬台国へ

4) 卑弥呼と「邪馬台国」 三國志に関する限り、邪馬壹国だ。後漢書の邪馬台国を勝手に変えるわけにはいかない。後漢書に関する限り邪馬台国だ。第一書の題名を朝日新聞社が決める時の相談で、三世紀には邪馬台国はなかったのですとつぶやいたという。それがカギカッコであった。何故五世紀范曄が邪馬台国と書いたか、五世紀には臺は神聖文字ではなく、臺のインフレ時代になっていた。二世紀帥升の時代は倭国、次の卑弥呼の時代は邪馬壹国、臺のインフレ時代の東晋、劉宋の時代は五胡16国の時代で宮殿は溢れていた。劉宋の時代は倭の5王で倭国。

次回日程 19-7-8(月) 15時から18時 603号室

-7-26(金)15時から18時 602号室

-8-9(金) 16時から18時 601号室